

令和5年度

第22回

「女と男の一行詩」

【講評】

今年度は128名から257作品という多くの応募をいただきました。どの作品も男女共同参画への思いが込められた素晴らしいものでした。たくさんの作品を見る中で感じたことは、特に若い世代を中心に、男女共同参画や多様性を認め合うのは当たり前で、性別で差を設けるなんてナンセンスだ、といった意識が広がっていることです。その一方で、実際の家庭や職場においては日々の何気ない言葉や行動の中にも、まだまだ「夫だから・妻だから」「父親だから・母親だから」「男性だから・女性だから」などといった性別役割分担意識が残っている、そんなことをあらためて気付かせてくれる作品も多くありました。過去の入選作から読み返してみると、着実に社会の中に共生の意識が広まってきていると感じます。今年度の入賞作品はいずれも今の時代に即したもので、多くの市民の皆様の心に響くものと思います。

「女と男の一行詩」
選考委員長 阪口 剛



応募者数
128名
応募総数
257点

【最優秀賞】

人生の
生き方決めるの
自分だよ

この作品は自分の人生は自分のものだと思えて気づかせてくれると思い書きました。私の作品を最優秀賞に選んでいただきありがとうございます。

飯田 優里さん（高校生）

【優秀賞】

イクメンと
言われるけれど
あたりまえ

まだまだ育児は女性がして当たり前という考えがあると思っています。イクメンという言葉を使わずに育児をして欲しいという想いを込めて書きました。

上田美帆さん（高校生）

【優秀賞】

多様性
互いに認める
あたたかさ

この作品は過去の自分、未来の自分、あるいは、そうだったかもしれない自分。そうした自分自身の互いに認め合った可能性について想いを込めて作った作品です。

岡本心那さん（高校生）

【入選】

「母親なのに」

貴方も同じ「親」ですよ

「母親」や「父親」という名前にとらわれず、性別的に押し付けられた役割ではなく、「親」としてより良い家庭を築く為の役割を共に分かち合って欲しいです。

大野莉奈さん（一般）

重いもの

二人で持つと 軽くなる

重い荷物を男の人だけが持つのではなく、男と女と一緒に持つことによって心も荷物も軽く、より一層仲を深め楽しむことができるという意味を込めて書きました。

橋本 怜奈さん（高校生）

受付「嬢」

元から俺は 対象外

今年度就職し、金融機関で働いている中で窓口業務をしている多数が女性職員であり、男性職員が窓口業務をしている状況が当たり前になると良いなと考え、この一行詩を作りました

岩田 桃佳さん（一般）

- あれはまだ？これはまだ？言ってくるけど私は 何刀流 すればいいんですか？
- 育児・家事 その 大変さに 気づくパパ
- 男らしい 女らしい いつまで言うの 大人たち
- 奏でよう 個性という名の ハーモニー
- 今日食器洗い どっち 現在 何も言わず黙々と（男女共同参画）
- 自信をもって あなたの個性が 一番すてき

投票上位に
ランクイン
した作品

- 職業で 大きすぎる 男女の差
- 性別は 関係ないね 個性だよ
- 楽しかった家族バーベキュー 後片付け 私だけ
- 都合よく「男」と「女」区別する
- どっちが良い 言い争うより みとめ合う
- 平等に 何年経った？ 政府さん
- 料理はね 女子力じゃない 人間力

